

海外の高校生、大学生が多数来館

7月4日、ニューヨークのブルックスコーラボレイティブ高校の高校生13名と引率の先生3名が、ジャパン・ソサエティ受入れ有田委員会のメンバーの案内で来館されました。この受入れ団体は、これまでも毎年ニューヨークの高校生をホームステイを含め受入れ交流をされています。広川町でも民泊されています。

翌5日には「日本インドネシア国交樹立60周年記念インドネシア高校生招へい事業」により来日された高校生が来館されました。インド



ネシアとは皆様もご承知のとおり、スマトラ沖地震・インド洋津波で大きな被害を受けたスマ

トラ島アチェ州のアチェ津波博物館と当館が2年前に提携を結びました。共同して津波防災の情報を発信しようとするものです。この調印以来、アチェ津波博物館には「稲むらの火」コーナーが、当館には「アチェ津波博物館」コーナーが設置されています。そして、お互いの交流も続けられてきました。インドネシアからは時々来館され、今回もこの政府間の記念事業で、「稲むらの火の館」も見学されたのです。インドネシア大阪総領事も急遽来られました。

7月10日には中国「山東師範大学」の学生90人が来られました。中国には津波被害はあまりないようですが地震等の災害はあります。



学生たちは、熱心に質問もして災害、防災のことを勉強していました。

「第9回稲むらの火講座」のご案内

「稲むらの火講座」も4年目に入り、今回で9回目になります。昨年第7回目として予定していました講座は、台風接近で中止をしました。今回、その時の講師を改めてお招きをします。笠間正弘先生です。



笠間先生は（一般財団法人）防災教育推進協会常務理事・防災教育センター長をされています。広川町の小学生が受検している「ジュニア防災検定」を主宰されています。

これは、子どもたちが自ら考え行動する真の“防災力”を育むため、「ジュニア防災検定」や「防災寺子屋」などの防災教育事業を行っているものです。著書に「わたしたちの防災」。現在、教職員共済だよりに「教職員のための防災基礎講座」を連載中です。

日時：平成30年9月16日(日)

午後1時30分～3時00分

場所：稲むらの火の館3階

演題：『災害から命を守る教育 ～広川の子どもたちが取り組むジュニア防災検定～』

講演会は定員90名です。申込順とします。
TEL 0737-64-1760へお申込みください。

なお、「稲むらの火講座」で講演を聞くだけは無料ですが、その後館内を見学される場合は有料となりますので、あらかじめご承知おきください。

濱口大明神縁起 (その19)

濱田康三郎 (かわせみより)

しかし乍ら、私は今によく覚えています、ずっと後年になっても、人々は父を時に『濱口大明神』——文字通りの意味では『大きく明らかなる神濱口』と呼びました。神社は、つまり比喩的に、彼等の心の中に、彼等の唇の上にだけ建てられたのであります。

父はその後数年して江戸——後の東京——に出で、国事に奔走し、明治の維新政府が起ると共に身を官界に投じ、初代の逓信頭(逓信大臣)となって多少の功績をのこし、閑地に退いてからは力を専ら地方自治のことに致し、教育の振興を計り、地方議員制度の行なわるるに及んで郷里の県会議員に選挙せられました。一八八四年(明治十七年)諸外国の政治制度を視察しようと志して世界漫遊の途に着き、先ずアメリカ合衆国に渡り、そこで病を獲、翌八十五年四月、ニュー・ヨーク市で客死しました。享年は日本風に数えて六十六歳でありました。

申し遅れましたが、あの大津波の折には、父は三十五歳でありました。ハーン氏のタダが私であったのなれば甚だ御愛嬌になるのでありますが、私は父の五十三歳の時の息子であります。大津波の当時、父は私の二人の姉達、即ち七歳のたき女と二歳のみち女とを持っている丈でした。

青年濱口はここで額ににじみ出た汗を押し拭いの幾分間息を休めて、一層感慨深げに結びの言葉を付け足した。

『……が、それにはしても、ハーン氏のあの「生ける神」の一篇は、何という立派な、力のこもった名文でしょう。父のこととは思いつつも、私はあの物語を繰返して読む度に、ハマグチ・ゴヘイの尊い同情と犠牲とに、はかり知れない感激の湧き立つのを禁じ得ません。然し、考えてみれば、それに何の不思議がありません。ハマグチ・ゴヘイは、結局は、濱口儀兵衛であるというよりも、むしろより多くラフカディオ・ハーンなのであります。作者ハーン氏の同

情と犠牲とが、ハマグチ・ゴヘイを通して、そのままあの物語にあらわれているのであります。即ち、ハマグチ・ゴヘイはやがてハーン氏その人に外ならないのである、とそう私は信じて居ります。

『父は——私の父濱口儀兵衛は、多分、皆様からそれほどの賞讃をお受けする程に特別な犠牲を成したとは、自分では夢にもおもいがけていなかったであります。何故かと言えば、おこがましいようですが、父は村で長者と呼ばれるものの一人でありました。父は非常の際に於ける長者の義務を尽くしたに過ぎなかったのであります。 (つづく)

<こども 梧陵ガイド>ご案内

広小学校6年生児童が「1日館長・こども梧陵ガイド」に挑戦します。6年間の防災学習の集大成として、稲むらの火の館で津波避難や復興支援に関する偉業を成した「濱口梧陵」さんをご案内するものです。関西大学(近藤ゼミ)、龍谷大学(石原ゼミ)の学生さんの支援を受けて、クイズ形式でわかり易く案内します。過去2カ年度にわたって実施し今年度で第3回目になります。8月23日午後、24日は午前と午後です。皆様、見学にお越し下さい。



昨年の「梧陵ガイド」風景

<稲むらの火の館の紹介>
 濱口梧陵記念館/津波防災教育センター
 〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671
<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>
 *開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)
 *休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
 (世界津波の日の11月5日は開館)
 年末年始(12/29～1/4)
 *記念館だけの入場は無料です